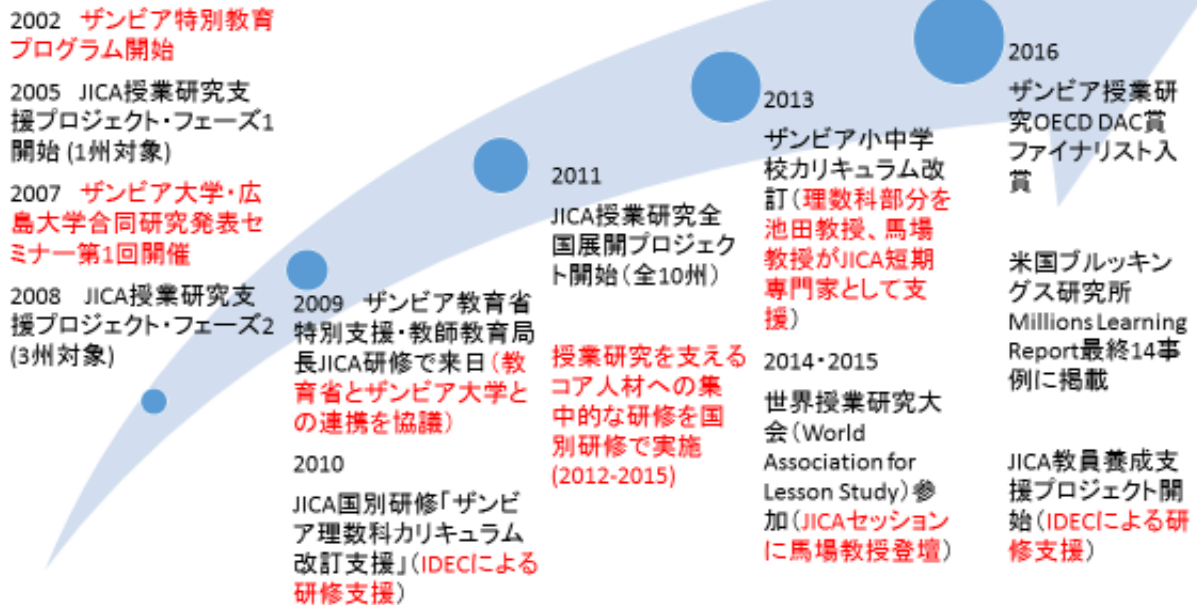


# JICAザンビア教育支援における広島大学IDECの役割と貢献

- 大学の使命である研究、教育、社会貢献をリンクさせた、持続的な取り組みを長期的に支援
- ザンビア政府からの厚い信頼を受け、学校現場から国のカリキュラム改訂までの幅広い支援を展開

【JICAによるザンビア教育セクター支援の展開と広島IDECの関わり(赤字がIDEC関連部分)】



## 【JICAによる授業研究支援の成果】

- 質の高い成果: 授業研究実施州の2009年国家試験合格率(理科)は62.6%。未実施州は50.3%であり、その差は統計的に有意(2010)。さらに授業研究実施の度合いと国家試験合格率との間に相関有との結果が判明(2015)。(出典:2010年及び2015年のインパクトアセスメント報告書)
- 全国展開:2005年開始時点で1州から2015年12月時点で全国10州まで展開。ザンビアの初中等学校3,322校(全体の34.8%)で合計46,462人(全体の46.1%)の教師が授業研究実施・継続。(出典:プロジェクト事業完了報告書(英文))
- 授業研究支援の政策実施能力の構築:各州での授業研究実施の仕組みの構築、授業研究のための参考資料の作成、中央・地方のコア人材育成
- グローバルな認知:2014年及び2015年の世界授業研究大会での発表。2016年にOECD DAC賞ファイナリスト入賞、米国ブルッキングス研究所Millions Learning Report最終14事例に掲載。



Photo: Atsushi Shibuya/JICA

先生たちが一緒に授業を計画します



Photo: Millions Learning web site

米国ブルッキングス研究所セミナーでザンビア授業研究が紹介

## 【広島大学IDECの取り組み】

●きっかけは2002年開始のザンビア特別教育プログラム。青年海外協力隊として派遣されながら修士号を取得するプログラムの草分け的な存在。ザンビア大学と連携し、関係者の研究発表の場を創出し、ザンビア教育セクターでの現場の改善と研究の蓄積に貢献。同時にJICAの授業研究支援プロジェクトと連携し、教員職能開発ジャーナルの投稿にも参加。

●JICAによる授業研究支援において、ザンビア教育省のコア人材育成を継続的に支援し、教材研究の実践強化に貢献。さらに2010年にザンビア初等中等学校理数科カリキュラムの改訂に関するJICA国別研修を支援。この研修がその後の2013年の初中等教育カリキュラム改訂につながる。池田教授、馬場教授が現地に派遣され、理数科部分の改訂作業に貢献。これまでの実績に基づいたザンビア側から広大IDECへの厚い信頼があり、国家の教育制度の根幹であるカリキュラムへの支援要請がJICAを通じなされた。

●2014年及び2015年の世界授業研究大会でのJICAセッションでの論文作成、共同発表などを通じ、ザンビア教育省スタッフの能力強化に貢献。グローバルな舞台で実践と研究成果を発信。

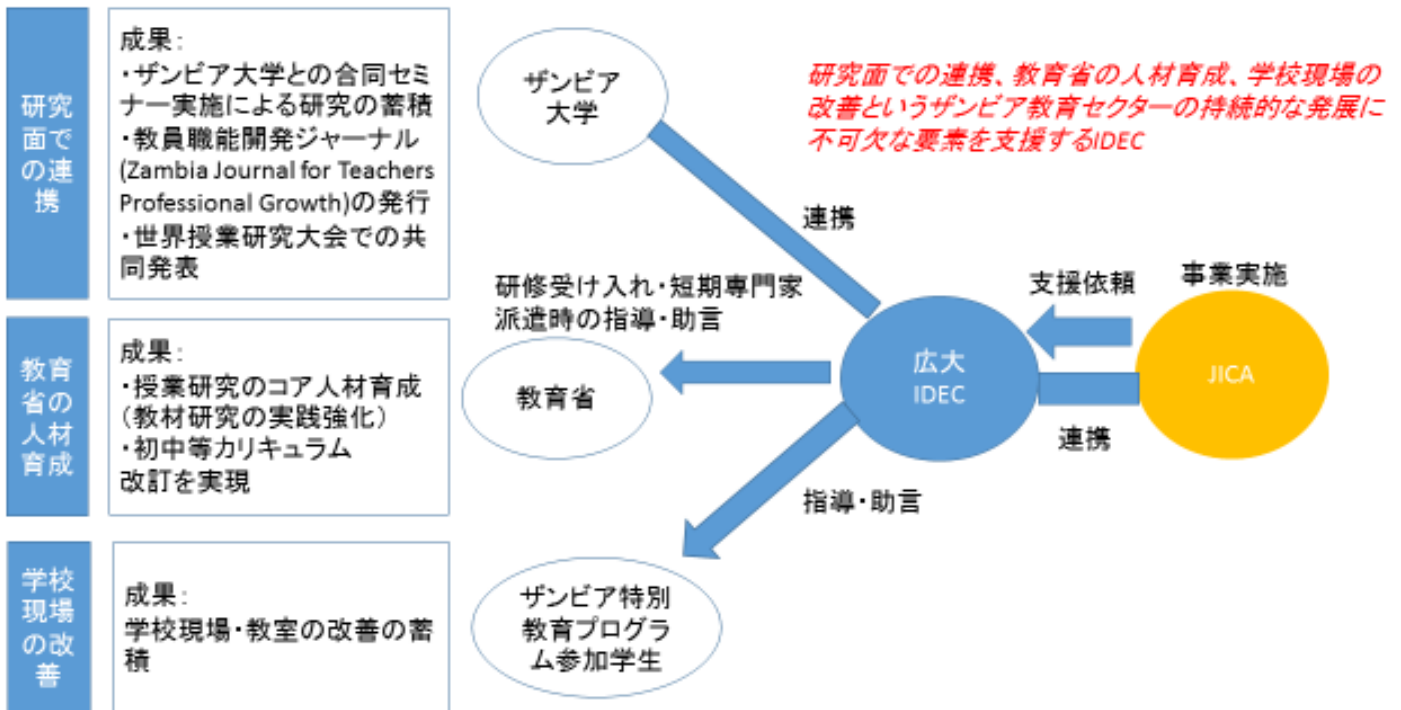


ザンビア大学セミナーでの清水教授と協力隊員



カリキュラム改訂ワークショップで協議をする池田教授、馬場教授とザンビア教育省関係者

### 【JICAによるザンビア教育セクター支援における広島大学IDECの位置づけ・役割】



### 【馬場研究科長より一言】

「目の前にある問題に捉われるのではなく、10年後のことを考えて取り組むよう」と、ザンビア教育省関係者に常に伝えてきました。ザンビアが持続的に教育改善に取り組めるよう、研究を通じた人材育成の種をまいてきました。ザンビア特別教育プログラムの卒業生も研究者、実務者として活躍しています。ようやく小さな芽が随所に出てきていると感じられ、今後の成長が楽しみです。